

## 鶴見川流域における広報の取り組み（コロナ禍中での情報発信）について

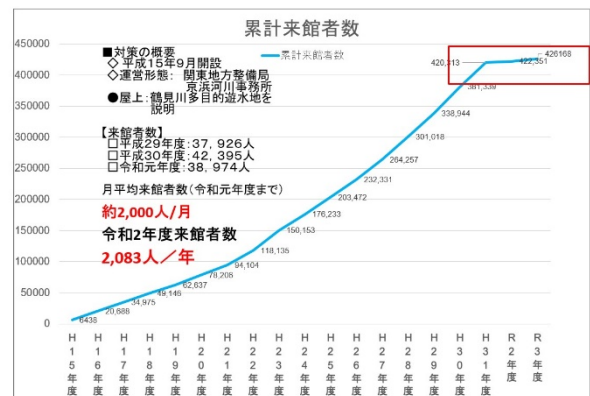
元 関東地方整備局 京浜河川事務所 流域調整課  
現 関東地方整備局 千葉国道事務所 経 理 課 糀谷 卓也

### 1. 背景・目的

鶴見川流域の広報では、鶴見川流域水マスタープランの推進を図るため、流域全体に対し理解が深まるよう情報発信を行ってきたところである。

また、鶴見川流域センターでは、流域市民に対し水マスタープランの理解が深まるよう情報発信、施設管理運営、団体対応及び学習会を実施してきたところであり、開館してより平成31年までは月平均2,000人以上の来場者がいたが、令和2年以降はコロナ禍により休館等広報活動を縮小せざるを得ず、従来の広報活動ができなくなってしまった。

そのため、新たな情報発信として、WEB環境等を利用することにより新しい取り組みを行うこととした。



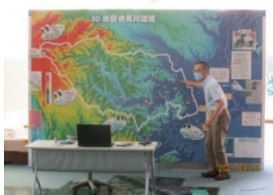
### 2. 従来型広報

従来では、鶴見川流域センターに訪問頂き、館内の展示物等の見学やスタッフの解説、団体対応、学習会等イベントへの参加を通じて水マスや鶴見川流域についての理解を深めて頂くという接触型の広報を行っていた。

### 3. 新たな取り組み（Webを用いた広報）

鶴見川流域センターで行っていた以下の広報活動をWeb（Facebook、Zoom等）にて行うこととした。

- ・情報発信（流域センターNews 火曜を除く毎日発信）
- ・団体対応（小学校の教室と流域センターをつないでWeb授業を実施）
- ・学習会（オンラインで現地とつなぎ「水のろ過実験」等を行った）



（説明風景）



（配信風景）



（受講風景）

団体対応：各教室と流域センターをつないでWeb授業を実施

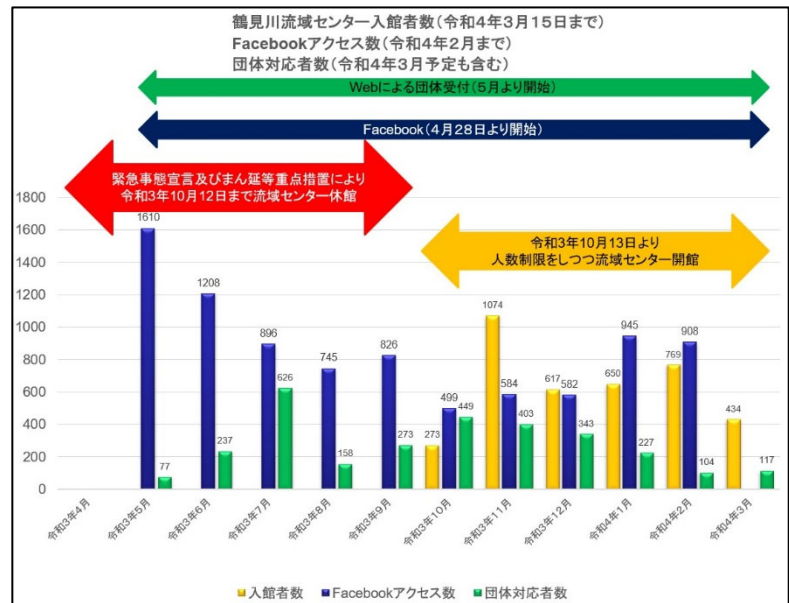
### 3. 結果

Facebookのアクセス数については、開始した4～5月が最も多く、それ以降は徐々に下がり現在では横ばいとなっている。

団体対応については、夏休みの研究課題に取り組む小学生からの申込みが多かったため7月の対応が最も多く10月以降は減少傾向にある。

Facebookにおいては、早い情報発信が肝心のため、情報の発信の迅速化、学習会等については研究課題等魅力のある内容の発信、実施する時期等の工夫が必要である。

しかし、アンケートにもあるとおり、県外や海外（ノルウェー）からの参加者もあり、Web環境を用いることでより広範囲の方々に広報ができることも確認できた。



#### (アンケート回答者のご意見)

- ・Zoomや動画を見るだけでも子ども一緒に楽しめました。
- ・Zoomでの講習会、本当に楽しかったです！！また是非開催して頂きたいです！
- ・コロナ禍でも工夫してできる講座を実施して頂いて、子供達にとって貴重な学習の機会になっています。
- ・学習会は、リモートではなく実際に体験したい
- ・ノルウェーからでも見れました。流域センターが映ったときとバクちゃんがでてきたときとても大喜びしていました。この前の夏に一度帰国したのですが、もうかなり懐かしんでました。
- ・緊急事態宣言が解除されても、学習会や観察会の配信を続けて欲しいと思う
- ・諸制約が多い中、工夫を凝らしながらのイベント実施に素晴らしいと
- ・緊急事態宣言が解除されても、学習会や観察会の配信を続けて欲しいと思う
- ・やはり、ZOOM開催、WEBコンテンツもいいですが、フィールドに出てなんぼというのが、流域を知る醍醐味だと思います。座学より、現場を見たいですね。

### 4. まとめ

鶴見川流域の広報については、流域市民に対し鶴見川流域水マスタープランについて理解が深まるよう情報発信を行っている。

コロナ禍により、対面型広報を縮小せざるを得ず、Webによる広報を行ってきたが、まだ、始めたばかりであるため試行錯誤を繰り返しながら情報発信を行っているところである。

アンケート結果からは、「Zoomや動画を見るだけでも楽しめた」、「子供他にとっては貴重な学習の機会となっている」等の好意的な意見があり、Webの広報を試みたことには一定の成果があったと思われる。

一方、学習会については、実際に体験したい、現場を見たいとの意見もあることから、対面型広報とWeb配信を組み合わせるなどの方法も考えられる。

今後はアンケートの意見を踏まえ改善していくとともに、今後も継続して実施していきたいと考えている。